

# 日大藤沢同窓会報

**第33号**  
 日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校同窓会  
 事務局：〒252-0885  
 藤沢市亀井野1866  
 TEL. 0466-81-0123  
 FAX. 0466-83-2161  
 発行人 坂井 太  
 編集責任者 会報編集委員会

## 後輩たちの活躍に感謝 ～昭和・平成そして令和へ～本校の発展を祈る～



同窓会会長 坂井 太

いよいよ2020年、オリンピックイヤーが始まりました。わが母校はスポーツで多くの選手が頑張ってくれています。今年度も水泳部では全国制覇を成し遂げ、野球部は指折りの激戦区神奈川県大会において、夏の甲子園まであと一歩の活躍でした。サッカー部が神奈川県大会を勝ち進み、全国高等学校サッカー選

手権大会にコマを進めることができました。これらの頑張りに対して現役生は全校を挙げて応援しています。もちろん毎回多くのOB・OGが駆け付け、後輩たちの晴れ舞台を声の限りに応援しています。創設70年のわが母校、卒業生3万7千人は同窓会を通じて、選手・山本昌広氏です。山本氏はご多忙の中、除幕式にも駆け付けてくださいました。今一人はアトラクタ・シドニーと二つのオリンピックでメダルを取り、バーミンガム世界選手権で優勝された元柔道選手・橋崎教子(旧

姓菅原)氏です。お二人ともわが母校の名を天下に轟かせてくれた素晴らしい功績の持ち主、まさにレジェンドです。そんな訳で同窓会では「功労者の碑」ではなく、あえて「レジェンドの碑」と呼んでいます。

その「レジェンドの碑」ですが、まだ名前はお二人分しか刻まれていません。なぜならこれからのわが母校から多くのレジェンドが生まれ、この石碑に名前が刻まれることと信じているからです。スポーツだけではありません。直木賞や芥川賞といった文学で名を残す方もいらっしゃいます。アカデミー賞などの芸術かもしれない。もしかしたらノーベル賞を受賞される人が誕生するかも知れません。

もちろん、そのような華やかな活躍をするだけ華やかな活躍ではありません。社会に出て、企業や組織の中で日夜仕事をこなしている人、自ら会社を興した人、自らが培ってきた能力を発揮する人やそれを堅実に生き、コツコツと人生を歩む人がいるからこそ、この世の中が動いていくというのを忘れてはなりません。

創設70周年記念誌でも述べさせていただきましたが、中国古典「管子」の一節、「二年の計は穀を植えるに如くはなし、十年の計は樹を植えるに如くはなし、一生の計は人を植えるに如くはなし」は非常に含蓄のある言葉であると思います。私はこれを長期展望の必要性を示したものととらえた解釈が気に入っています。

すなわち、「1年先の未来しか考えないならば、稲でも植えて目先の飢えを満たそうという発想にしかならない。10年先まで考えるならば、稲と同時に木も植えて10年後にその木をつかって工業を発展させることを考えよう。しかし100年先のことを考えていくならば、人材の育成に注力し有為な若者を生み出していくことが国を潤す考え方だ」ということです。

これは何も国家百年の大計を述べたものだけ考えるものではありません。私たち一人ひとりのまた、人生において、長期的展望に基づいて今と今とを繋いで生きていくことが大切なのではないかと思われまます。この先1年間の結果のみを求めるとき、何十年か先の結果を求めるときでは、おのずと種のまき方も変わってくるはずなんです。

母校日藤はこれまで70年の時をかけて、亀井野の地に長期展望に基づく種まきを続けてきました。さまざまな人が育ち、それぞれが人生を歩み、そして日本という国を支えてきました。だからこそその中からレジェンドが生まれ、また後進が

いていくのだと思えます。皆が力を合わせた社会の中で、頑張つてスポーツライオンを浴びることを目標にする、それはとても素晴らしいことだと思います。ぜひ実現させてください。また光が当たっている人だけではなく、地道に努力している人、一歩ずつでも前に向かって進んでいる人、みんなを応援している人、目標にして頑張る人が増えたりする、そういう世の中の在り方を目指して、母校は71年目の種まきに切り掛かっています。今年は元号も変わり、今年度はオリンピックイヤー、さあ皆さん、「よし、やるぞ」と奮起してください。同窓会はその思いを全力でバックアップしてまいります。

## 日本大学の教育理念と 本校が目指すもの



学校長 楠本 文雄

本校は、日本大学の付属高校の一つとして、昭和24年(1949年)に創設され、日本大学の教育理念「自主創造」のもと、「健康・有為・品格」を校训に掲げ、心身のバランスのとれた、「高い知識と創造力」「利他の精神」「豊かな人間性」

を備えた生徒の育成を目指して教育活動を行っています。平成21年には藤沢中学校が、平成27年には藤沢小学校が開校され、令和2年4月に小学校も6学年が揃って完成年度を迎えます。これにより「18歳意識調査」の結果を見ると、「自分を大人だと思う」と答えた日本の子どもは29.1%に対して、中国89.9%、ドイツ82.6%、イギリス

82.2%、アメリカ78.1%です。「自分は責任ある社会の一員だと思えますか?」の質問には、日本44.8%に対して、中国96.5%、インド92%、イギリス90%、アメリカ90%です。「自分の国に解決したい課題があるか?」には、日本46.4%に対して、インド約90%、アメリカ約80%です。知識はあるが、考え方や意識・意欲の面で世界的水準よりかなりかけ離れた値になっています。

そこで、日本大学では「日本大学マインド」として、次のような資質を持つ人材を育成するとしています。

- ① 豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
- ② 世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。
- ③ 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることが出来る。
- ④ 事象を注意深く観察し、問題を発見し、解決策を提案することができる。
- ⑤ あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
- ⑥ 他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
- ⑦ 集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍

を支援することが出来る。⑧ 謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

私たち日大藤沢も、このような日本大学の考え方にそって、自信をもって世界水準で活躍できる人材を育成し、輩出しています。とくに今年度は、在学中から生徒たちが活躍しています。水泳部・サッカー部・ソフトテニス部・陸上部・レスリング部・ウエイトリフティング部は全国大会に出場し、とくに水泳部は男子が総合優勝、女子が総合優勝2連覇を成し遂げました。今後も後輩たち

の活躍にご期待いただき、変わらぬご支援、ご声援を賜りますようお願い申し上げます。今年度は、444名の生徒達が日本大学藤沢高等学校、121名が日本大学藤沢中学校を卒業しました。誰もが将来活躍してくれることを期待します。そして、我々教職員一同は、これからも日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校・小学校の発展のために頑張つて参ります。結びになりますが、部活動や学校行事に対する同窓会からの援助に深く感謝申し上げます。同窓会のご発展と同窓生の皆さまのご健康とご活躍を祈念いたします。

**祝**  
 2019年 日本大学 創立130周年  
 2019年 日本大学藤沢中学校 開設10周年  
 ●1889年(明治22年)10月4日「日本法律学校創立」  
 ●1903年(昭和36年)8月19日校名を「日本大学」と改称  
 ●2009年(平成21年)4月「日本大学藤沢中学校」開設

**水泳部** 2019年 全国高校総体 女子総合優勝(2連覇)！ 男子総合準優勝！  
**サッカー部** 第98回 全国高校サッカー選手権 神奈川大会 優勝！ 全国大会ベスト16！  
**硬式野球部** 第101回 全国高等学校野球選手権 神奈川大会 準優勝！

### 2020年度同窓会 総会・懇親会のご案内

定例総会と懇親会を、生物資源科学部NUBSホール(予定)において開催いたします。総会の案内状がお手元に届かない場合があるかと思いますが、同級生およびクラブ活動等の卒業生をお誘い合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

- 日時 2020年5月下旬(予定)※
- 場所 総会・懇親会 日本大学生物資源科学部NUBSホール(会場案内) または、本館棟 地下1階食堂(予定)※ (を参照)
- 会費 一人 3,000円

※開催日時及び開催場所につきましては決まりましたら、下記ホームページにてお知らせいたします。予めご了承ください。

お知らせ 同期会、クラス会など実施の際、通信費などの補助金が出ますので事務局までご一報ください。 ※開催の日時、場所、出席者人数、領収書などが必要です。

●ホームページ <http://www.fujisawa.hs.nihon-u.ac.jp/>

# 2019 水泳部 全国高校総体 (インターハイ) 女子総合優勝 男子総合準優勝 2連覇!



令和元年8月17日から20日までの4日間、熊本県で全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(インターハイ)が行われ、本校水泳部が女子総合優勝(2連覇)、男子総合準優勝という輝かしい成績を残しました。同大会における団体での優勝は昨年度に引き続き2年連続、男子は初の入賞が準優勝という快挙です。

第1日目は先陣を切って男子400m自由形で清水博斗が1年生ながら7位に入賞し、続く女子200m個人メドレーで川口菜美(2年)が銅メダルを獲得、続く200m平泳ぎで吉田杏子(3年)



が得点を伸ばした。昨年準優勝だった女子4×100mフリーリレー(川口・栗山・望月・大内)は悲願の初優勝し、金メダルを獲得。続く男子4×100mフリーリレー(荻野・柳川・讃岐・清水)は予選6位通過からの銅メダルを獲得。男女ともによい雰囲気です。

第2日目は女子50m自由形で主将の大内紗雪(3年)が同種目2連覇を飾り、チームを波に乗せた。続く200mバタフライでは荻野倅太朗(1年)が5位に入賞し、続く200m自由形では清水が着実に得点を伸ばし、男子100m背

泳ぎで柳川大樹(2年)が初優勝。女子100m背泳ぎでは泉原風沙が銅メダルを獲得し、城戸佑菜(3年)も8位に入賞し、男女ともに総合得点を大きく伸ばした。

第3日目は男子200m背泳ぎでは柳川が準優勝。女子100m平泳ぎでは猪狩彩奈(1年)が4位、吉田が5位に入賞した。この日の最終種目の女子4×200mフリーリレー(川口・泉原・望月・大内)は1度もトップを譲ることなく大会史上初の2連覇。男子4×200mフリーリレー(清水・柳川・田淵・荻野)も銀メダルを獲得した。

最終日は女子100m自由形で大内が2連覇を果たし、今大会4つ目の金メダルを獲得。続く400m個人メドレーでは田淵海斗が銅メダルを獲得した。最終種目の女子4×100mメドレーリレー(泉原・猪狩・川口・大内)は100m毎

# 第101回 硬式野球部 全国高等学校野球選手権 神奈川大会 準優勝



2019年7月7日に開幕した全国高等学校野球選手権神奈川大会において、本校硬式野球部が準優勝に輝いた。

昨年度チームは、野手の公式戦経験者が少なく、投手陣もエース武富に頼らざるを得ない形でスタートし、秋春ともベスト16止まり。選手権予選は第三シードで臨むことになった。序盤から厳しいブロックとなった今夏であったが、選手たちは初めから全力でぶつかっていった。

初戦となる2回戦(7月14日)は本校OBの宇留志監督率いる湘南台高校戦。秋の地区予選では敗れたこともあり苦戦も予想されたが、キャプテン森田(3年)のホームランが飛び出すなど打線が爆発し、また投げては好調のエース武富(3年)が湘南台打線をピシヤリと抑え、6回コールド勝ちで幕を開けた。

続く3回戦(7月17日)では、プロ注目の好左腕を擁する横浜隼人高校と対戦した。5回に先制を許す厳しい展開であったが、8回に石川(3年)の同点ホームランが飛び出し延長戦へ。3対3で迎えた10回裏、菊地(2年)の左中間を破る二塁打で見事にサヨナラ勝ちを収めた。

4回戦(7月20日)の橘高校戦では、武富の代わりに堀木(2年)を先発投手に起用。3点を取られるも、2番手鶴飼(3年)の好リリーフと打線が援護し、7回コールド勝ちで難なく5回戦へと進出した。

5回戦(7月22日)の座間高校戦では、柳澤(3年)が先発し6回1失点と好投をみせ、また7回コールド勝ちで試合を終わらせた。

6回戦(7月24日)の準々決勝戦は、春季神奈川大会ベスト4の鎌倉学園と対戦。3回戦で肩甲骨

付近の筋肉を痛めてしまい、中6日ほど投げ練習もしていない状態であったエース武富。いつも以上に丁寧な投球を心掛け、9回裏にノーアウト満塁の大ピンチを迎えるも、気迫のピッチングにより鎌倉打線をわずかに抑えた。キャッチャー牧原(2年)のホームランやタイムリースリーベースなどの大活躍により4対1で勝利し、見事ベスト4入りを果たした。

準決勝(7月27日)は、準々決勝にて向上高校を13対5という大差で破り勝ち上がった桐光学園との対戦となった。3回までに2点をとり、6回に相手の三塁打などで同点に追いつかれるも、7回には森田のタイムリーツーベースなどで5対2と再び勝ち越した。8回には牧原の今大会3本目となるツーランホームランで7対2とリードを広げる。その裏3点をとられ7対5と差を縮められるも、エース武富が最後まで一人で投げ抜き、ゲームセット。OBによる応援の後押しもあり、23年ぶりの準決勝の舞台へと駒を進めた。

迎えた決勝戦(7月28日)。相手は、春季神奈川大会でも対戦した強豪東海大相模高校。全校生徒・保護者・教職員・OB・OGの方々でピンクに染めた横浜スタジアム。チーム一丸となり全力で挑むも、前半から相手の猛攻を止めることができず、春に続きまたも敗北を喫した。しかし、チームは準優勝という有終の美を飾ることができ、また「気迫で押し勝つ」というスローガンで戦ってきた今シーズン、神奈川県で二番目に長い夏を過ごすことができた。この結果に対し山本秀明監督は「ここまで来られたのも選手たちの

第101回 全国高等学校野球選手権 神奈川大会

試合	対戦学校名	試合会場	得点
2回戦	湘南台高校	サーティーフォー保土ヶ谷球場	11-1
3回戦	横浜隼人高校	俣野公園横浜薬大スタジアム	4x-3
4回戦	橘高校	大和スタジアム	10-3
5回戦	座間高校	サーティーフォー相模原球場	8-1
準々決勝	鎌倉学園高校	横浜スタジアム	4-1
準決勝	桐光学園高校	横浜スタジアム	7-5
決勝	東海大相模高校	横浜スタジアム	1-24

おかげ、本当に選手たちに感謝している。また同窓会の皆さまをはじめとする皆さまの熱い応援があったからこそ準優勝することができました。心より感謝申し上げます。」とコメントを残した。3年生は「本当に最後まで諦めず、気迫を出し戦えた」「勝ち上がったことが成長だと思う」「3年生同士で支え合えた」と甲子園に行きたかったという気持ちをこぼし、「お互いを称えあってきた。2年生と1年生は「相模を倒す目標は変わらない。来年は精神と技術を磨いて、絶対に甲子園に」「この点差を縮めるために練習して、必ず来年この舞台に戻ってきたい」とりべんじを誓っていた。

この暑い夏に桜旋風を巻き起こし、みんなを歓喜の渦に巻き込んだ日大藤沢硬式野球部。今後の活躍に目が離せない。

# 祝



## 日本大学藤沢中学校の 10年をふりかえる

### 2009年開校 日本大学藤沢中学校

#### 卒業アルバムでたどる10年

平成21年で創設60周年を迎えた高校に併設する中学校の開設準備が開始されました。平成24年8月28日に中学棟の竣工式が執り行われました。

1階には、約700名を収容できる大教室があり、授業はもとより、さまざまな行事で使われています。

3階には、約100名を収容できるホールと、外で食事ができる約60席のホールデッキがあり、高校生も使用しています。また、職員室には生徒の安全を見守るためのカメラの映像を見ることができ、セキュリティに配慮した校舎となっています。

今回紹介するのは、本館図書室に保管されている一期生から七期生までのアルバムの表紙を掲載しました。また、一期生を担当された先生から当時の思い出を4面に掲載しました。

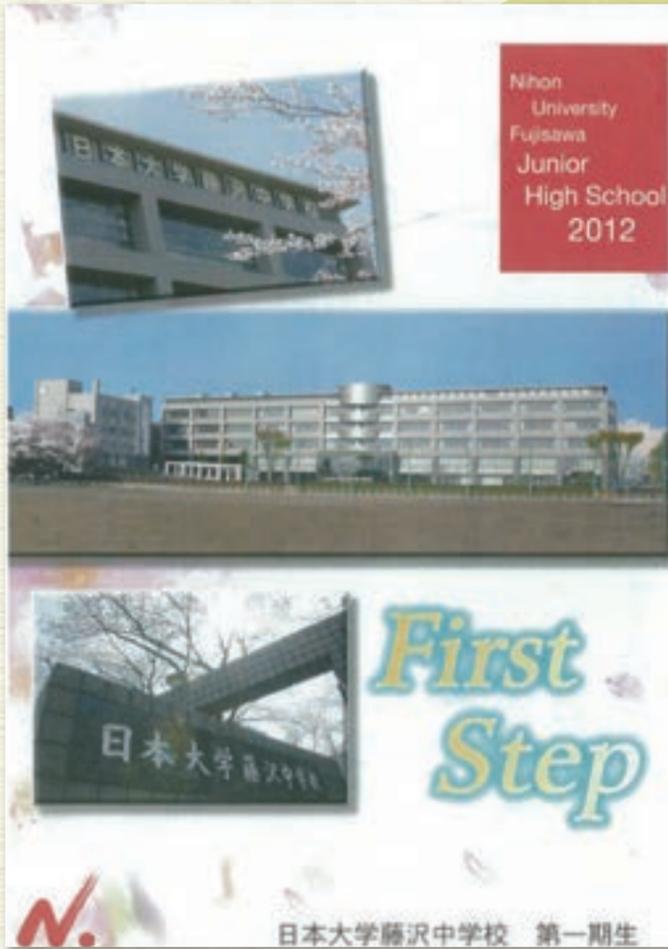


第1期生 入学式



平成24年8月28日に行われた中学棟の竣工式

#### 卒業アルバム



#### 2012

第1期生 (2クラス)

- クラス担任
- 1組: 原田 哲夫
- 2組: 高木 けい子



完成した中学棟の外観



第2期生 オリエンテーション

#### 2014

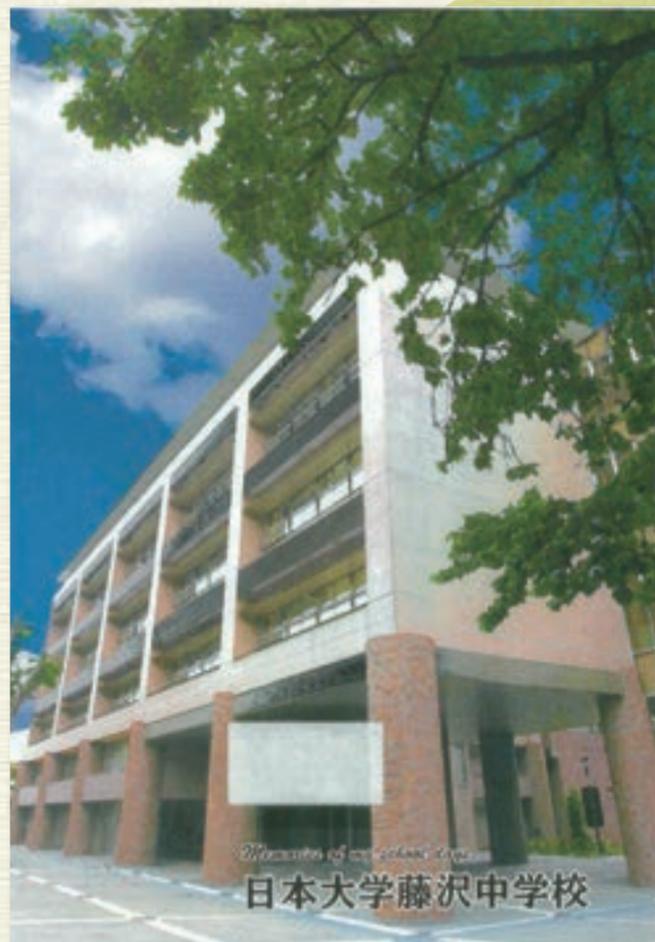
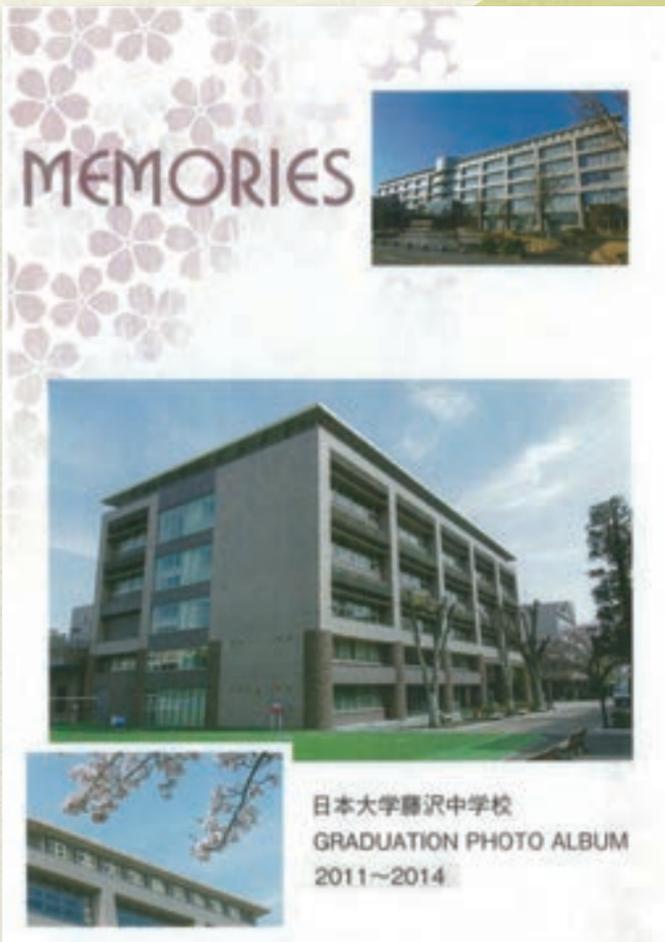
第3期生 (4クラス)

- クラス担任
- 1組: 小林 真由美
- 2組: 矢部 裕淑
- 3組: 長岡 正浩
- 4組: 佐藤 陽介

#### 2013

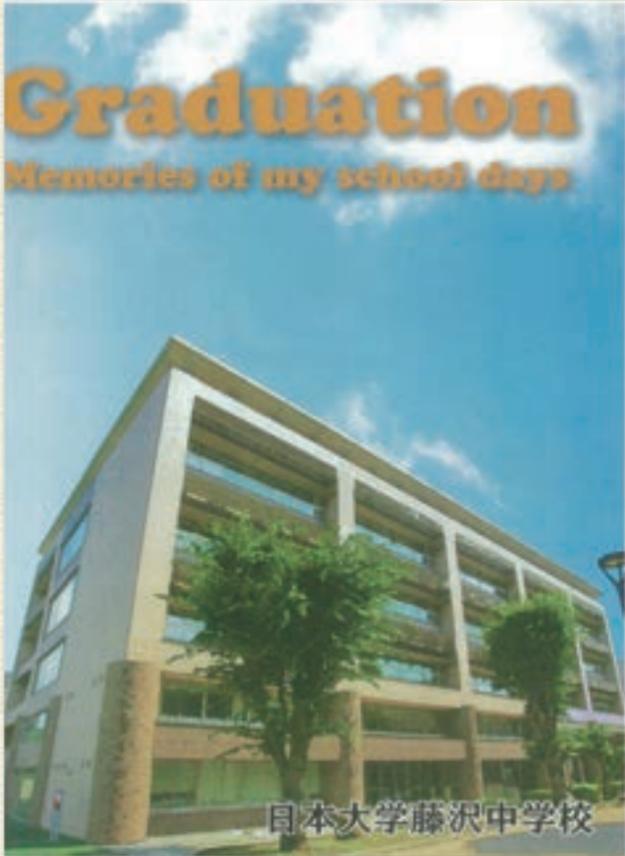
第2期生 (3クラス)

- クラス担任
- 1組: 加藤 達哉
- 2組: 山本 宮子
- 3組: 佐々木 孝徳



日本大学藤沢中学校

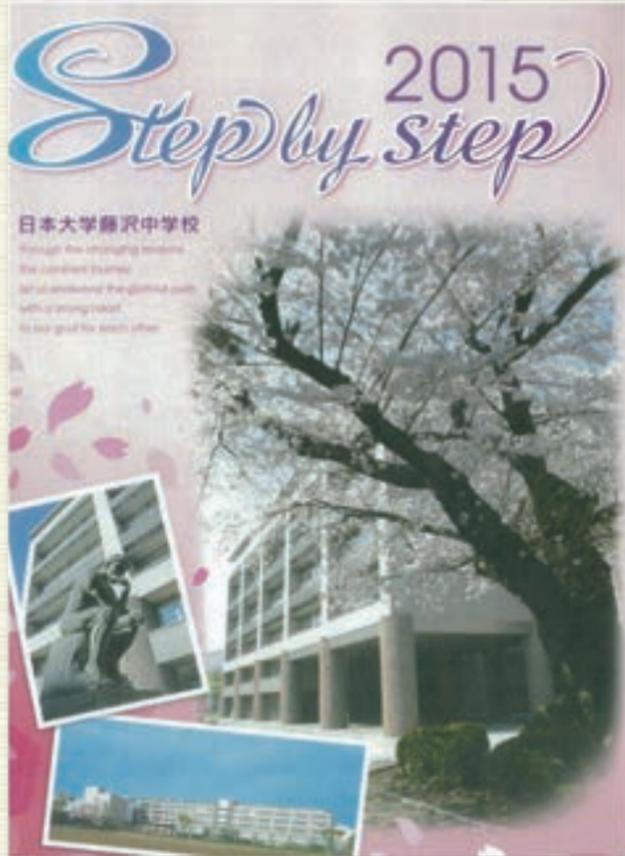
祝 日本大学藤沢中学校の10年をふりかえる



2016

第5期生 (3クラス)

- クラス担任
- 1組:佐々木 孝徳
- 2組:千葉 篤胤
- 3組:岡田 有未



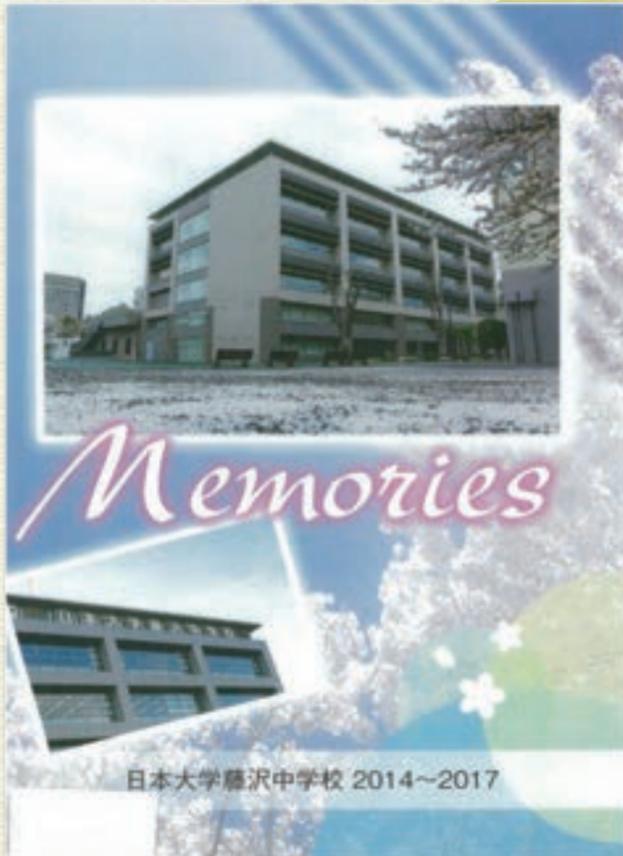
2015

第4期生 (3クラス)

- クラス担任
- 1組:高木 けい子
- 2組:池田 直哉
- 3組:松浦 淳



百人一首大会



2017

第6期生 (3クラス)

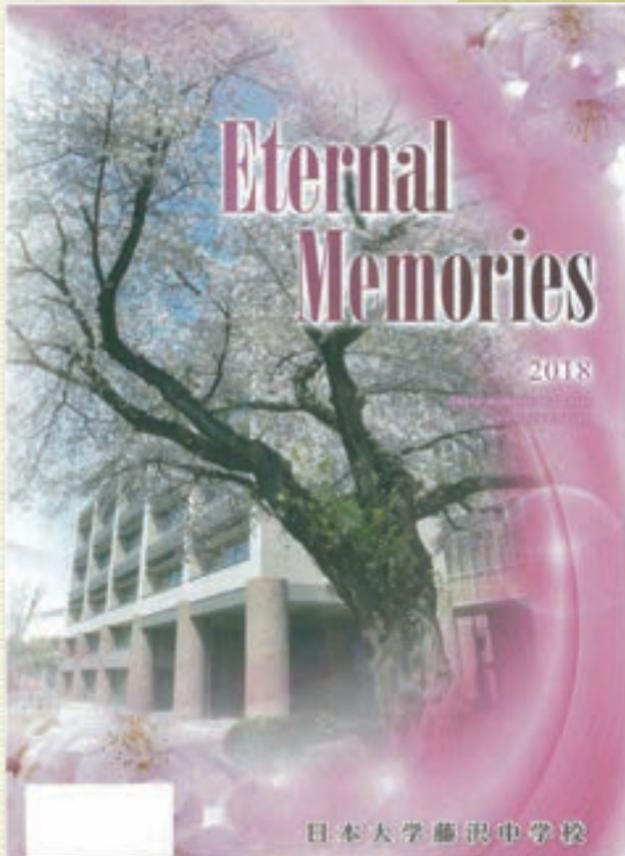
- クラス担任
- 1組:千田 浩子
- 2組:越山 裕之
- 3組:苗村 佳則



日藤祭



2018年 卒業式 (第7期生)



2018

第7期生 (3クラス)

- クラス担任
- 1組:佐々木 弦
- 2組:松村 美和子
- 3組:林 洋平

中学1期生の思い出 原田 哲夫

山ほどある思い出。あえて一つ挙げれば、2年次の林間学校。富士登山翌日の「追い打ちハイキング」。足を滑らせそうな、かなり急な斜面をおさるおさるの下らせていると、自然と男子が女子の手を取ってフォローしていたのです。それはそれは微笑ましい光景でした。

たしかに、1期生85名は男女問わず、実に仲が良かった。修学旅行も文化祭・体育祭も、嫌な空気になることが一度もなかった。

だから卒業式当日、突然目隠しをされたうえで音楽室に連行され、合唱をプレゼントされたときはさすがに涙をこらえることができませんでした。

医歯薬系に進んだ者を除くと、1期生もすでに社会人。それでもまだ一緒にワイワイ飲んでいようです。

※資料:日本大学藤沢高等学校図書館より

# 祝 日本大学 創立130周年記念

## 日本大学が 創立130周年を迎えました

明治22年10月4日に創立された日本法律学校から130年、その長い歴史を黎明・試行・躍進と苦闘・新生として、それぞれの時代の写真とともに振り返ります

## 学祖像



萩の顕義園に立つ山田顕義像

## 山田 顕義の生涯

政治家



山田顕義像

軍人



佐土原城攻撃に指揮をとる山田顕義

志士



山田顕義像 (戊辰戦争頃)

(略歴)

弘化元年(1844)長州松本村(現山口県萩市)に毛利藩士山田顕行の嫡男として生まれました。安政4年吉田松陰の松下村塾に入門し、勉学とともに用兵の術を習得し、陸海軍の参謀として活躍した。28歳にして陸軍少将となる。明治4年欧米諸国を視察し法典や軍事などを調査研究する。西南の役では旅団長として偉勲を建て伯爵となる。明治18年から24年まで各内閣の司法大臣に任じ、わが国近代的法治主義の基礎を確立した。明治22年日本大学の前身である日本法律学校を創立する。明治25年に逝去、享年49歳であった。

## 黎明

## 皇典講究所から日本法律学校へ

日本大学が学祖と仰ぐ山田顕義は明治15年、神道の振興を図るため東京府麹町区飯田町五丁目の旧旗本・秋元邸跡に皇典講究所を設立した。この講究所は、のちの日本法律学校の

日本大学、さらには國學院大学へと発展していくこととなる。欧米諸国を視察した山田は司法大臣となり、国情に合った日本の法学の樹立を図ろうと計画する。憲法起草委員や東

大教授らに協力を求め創立したのが日本法律学校である。日本法律学校の創立が東京府知事から認可されたのが明治22年10月4日で、本学の創立記念日となる。



明治26年12月江東中村楼で開かれた合同懇親会に集まった講師陣と、第一回卒業生有志



初めての校舎落成 / 明治28年に建てられた初の独立校舎



日本法律学校発生の地(当時の飯田町地図)

※参考文献・写真:「日本大学の九十年」、「写真でみる日本大学の130年」より

祝 日本大学 創立130周年

### 関東大震災



「母校の復興は我々に手で……」  
焼跡に馳せ参じた学生たち

### 女子学生の誕生



大正11年日大新聞第四号に掲載された  
初の女子大生懇親会のスナップ

### 日本大学への改称



大正9年に完成の三崎町新校舎  
この年に大学令による日本大学が認可された

試  
行

### 戦時下の学園



足音も高らかに行進する学生たち

### 近代校舎 完成

大正9年に完成の  
三崎町新校舎  
この年に大学令による  
日本大学が認可された



躍  
進と苦  
闘

### 学園紛争



### 日大講堂開設



昭和33年旧両国国技館は日本大学講堂として生まれ変わった

新  
生

日本大学創立130周年  
キャッチフレーズ

## 「130年の輝きと共に、未来を創る」

### 日本大学創立130周年記念事業



日本大学病院  
開院  
(平成26年)

2014年10月、都心の中核病院として「病院は病者のためにある」を理念として安全で安心な医療を目指している。



日本大学藤沢  
小学校開校(平成27年)

2015年4月、学校法人日本大学初の小学校として、湘南キャンパスに設置された。豊かな自然環境と最新の学習設備の下で、自主性と創造性の芽を育成する。



危機管理学部・  
スポーツ科学部(平成28年)

2016年4月、28年ぶりに二つの新学部を東京都世田谷区に開設した。危機管理に対応する能力と専門スキルの取得やアスリートの競技力向上と指導者養成を目的としている。



日本大学認定  
こども園開園(平成29年)

2017年4月、東京都世田谷区に開園した日本大学初の認定こども園である。小学校就学前の幼児教育と保育を一元的に行う。

いかがでしたでしょうか～130年という長い歴史を会報誌2面で紹介することはとても難しく、どのように構成するか悩みました。今回は、学祖の紹介と日本法律学校から日本大学初期の時代を中心に構成しました。参考文献の資料を読んでみて、時代ごとに日本大学はさまざまな試練に立ち向かい、現在の総合大学をつくり上げてきたことがわかりました。日本大学創立130周年記念事業を掲載しましたが、掲載以外にも4つの男子学生寮と3つの女子学生寮(7学生寮800室)を開設しました。「自主・創造」「学生ファースト」をスローガンに、これからも日本大学のますますの発展を願ってやみません。

※参考文献・写真:「日本大学の九十年」、「写真でみる日本大学の130年」より

# 令和元年度 日大藤沢高等学校同窓会 横浜・横須賀・鎌倉支部 合同懇親会 開催



楠本学校長からは、活躍するクラブ活動の話や昨年130周年を迎えた日本大学の祝賀会の話が



開会・司会進行は横浜支部長である山田史郎氏

令和元年度の横浜・横須賀・鎌倉三支部合同の懇親会を令和元年10月5日(土)午後6時からホテル・ザ・ノットヨコハマ(旧横浜国際ホテル)2階KINING&QUEENの間で行われました。出席者は約50人ほどですが、学校関係者・来賓の方が13人も来ていただきました。

開会・司会進行は横浜支部長である山田史郎氏(昭和61年卒)が行い、挨拶がありました。来賓の坂井太同窓会長からは、同窓会には現役生のため活動をサポートすることが重要であり、また、同窓生同士の交流の場であることが大切であるとのあいさつがありました。次に楠本学校長からは、活躍するクラブ活動の話や昨年130周年を迎えた日本大学の祝賀会の話がありました。



余興は日本大学吹奏楽研究会による演奏



乾杯は横浜支部顧問の飯田昌巨氏

今回はそれをやめ、落ち着いて食事ができるようにしました。

余興は昨年からお願ひしている日本大学吹奏楽研究会による演奏です。同研究会は、65年の歴史があるそうです。研究会をお世話しているのが鈴木徹氏(昭和42年卒)が担当しており、今回も取りまじめにお願ひしました。20人の演奏者の中に本学の卒業生が3人いました。研究会の主宰である城市幸菜さん(平成28年卒)で、

鈴木氏の話では、研究会で主将は本学の卒業生として初めてであった。栗原愛美さん(平成28年卒・商学部)と飯窪大介さん(平成31年卒・経済学部)の3人です。演奏の途中で3人が在学中の思い出を語り、当時の思いを語った。城市さんと栗原さんは本学吹奏楽出身で当時の顧問の先生への感謝の言葉がありました。飯窪さんは本学在学時には軟式野球部に入っており、大学進学と共に好きだった音楽をやりたくて入会したとの話がありました。演奏も参加者の年齢に配慮していただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。参加者も演奏中は静かに聞き入っていました。演奏の終わりに校歌の斉唱を行いました。その後は、追力(文責・柳澤 昭夫)



閉会の辞は同窓会副会長である大原春代氏



栗原愛美さん(左)と飯窪大介さん(右)



鈴木徹氏(左)と主将である城市幸菜さん(右)

## 常任幹事募集!!

同窓会は、顧問・会長・副会長・常任幹事の役員で構成されています。

これに同窓会を担う常任幹事があります。定期的な幹事会を開き、会の運営を行ってまいります。本年度は、第1回は4月20日に、第2回は定期総会の1週間前の5月18日に行い、5月25日に総会を実施し、第3回は、役員忘年会も兼ねて11月30日に行いました。

8頁に記載されている役員名簿をご覧になってお分りになるかと思いますが、高年齢化が見られます。ここ数年、平成卒の同窓生が

常任幹事として活動を開始するようになります。常任幹事会の模様は写真をご覧ください。また、同窓会には各委員会と地域ごとに支部が結成されています。常任幹事をやってみたいとお考えの同窓生は、最寄りの支部長や支部役員にお気軽にお声かけください。

常任幹事会の了承を経て常任幹事となります。通常、常任幹事会は年度に3回行われますが、緊急の案件処理のため臨時の幹事会を行うことがあります。同窓会の役員をためらっている



常任幹事会の様子



忘年会の様子

同窓生や、やりたくないと思える同窓生は多々いると思えますが、学校の近況がわかることなど得るものも多々あります。

昨年度から常任幹事会でも若手常任幹事をどのよう

に増やすかなど、世代交代の話や、かには楽しい同窓会にしたいという話が出た。やはり同窓会は同窓生がいかにかに楽しめるかの会では、常任幹事は常時募集しています。

特に若手の方の参加を期待していただきます。若手の方が入ることによって同窓会も活性化され

## 同窓会報作成委員 急募!!

現在、常任幹事と会員の2名で会報を作成しています。とても足りません。作成に興味がある方は、常任幹事に関わらず一般の会員の方でもぜひ事務局までご連絡ください。このままの状態ですと会報の発刊も危うい状況です。



同窓会看板

## 同窓会 新看板

25周年記念棟の1階に同窓会室があるのには皆さまご存知だと思います。同窓会室出入口の上にはプラスチック板に同窓会室という標記がされています。威厳のある看板をおいて、できた

を設置したいとの意見が出て、予算や依頼する業者の調整に時間がかかり、ようやく看板を掲げることができました。日藤祭などでお越しの際にはぜひお立ち寄りください。

日大藤沢同窓会総会及び

日藤祭出店報告

柳澤 昭夫(昭和53年卒)

令和元年度の総会、令和元年5月25日(土)午後2時から、日本大学生物資源部NUBSホール2階で開催されました。会場には来賓、現旧教職員、会員など例年とほぼ同じ120名ほどが集まりました。総会の司会は、山田史朗氏(昭和61年卒)が担当しました。まず、坂井太...

令和元年度の総会、令和元年5月25日(土)午後2時から、日本大学生物資源部NUBSホール2階で開催されました。会場には来賓、現旧教職員、会員など例年とほぼ同じ120名ほどが集まりました。総会の司会は、山田史朗氏(昭和61年卒)が担当しました。まず、坂井太...



日藤祭/入口ゲートと生徒会役員テント



日藤祭/同窓会ブースのテント



日藤祭/後援会ブースのテント



日藤祭/生徒のブーステント

画・予算の決算・予算案などが採択され無事に総会は終了となりました。懇親会に移り、司会進行は熊田成之氏(昭和52年卒)が担当しました。授与式が本校校庭で行われ、元プロ野球選手で野球解説者の山本氏(昭和59年卒)です。詳細は下記の記事をご覧ください。

の再会を楽しみに散会となりました。懇親会終了後に同窓会功労賞の授与式が本校校庭で行われ、元プロ野球選手で野球解説者の山本氏(昭和59年卒)です。詳細は下記の記事をご覧ください。

事務局長 三武 啓生(平成11年卒) 同窓会の目的は、会員相互の親睦と母校発展への寄与です。事業として、同窓会総会や各支部総会と懇親会、同期会、クラス会・クラブOB会などの開催補助金を支給しています。また、母校への支援は、全国大会へ出場したクラブへの奨励金の贈呈、卒業時に紅白饅頭配布・同窓会長賞の授与などを行っています。

「功労者の碑」除幕式 令和元年5月25日(土)の同窓会総会後、本校にて功労者の石碑の除幕式が開催されました。功労賞の受賞者は、野球の山本昌広氏、柔道の榎崎教子氏(旧姓菅原)であり、今回は山本昌広氏に由来をいただいております。坂井太同窓会会長から表彰されました。その後、楠本文雄校長と石碑の除幕が行われました。



山本昌広氏のスピーチ 除幕の様子 表彰の様子

事務局だより

事務局長 三武 啓生(平成11年卒)

支部活動は、横浜・藤沢・茅ヶ崎・湘南・西湘・鎌倉・横須賀の7支部です。その他に四つの委員会を設置し役割を分担して会の運営にあたっています。今後とも、同窓会へのご支援・ご理解をお願いします。

「お知らせ」 同期会、クラス会など実施の際、通信費などの補助金が出ますので事務局まで一報ください。

【教職員の動向】 着任新任 平成31年4月 柴本 陽平(数学) 高橋 春山(体育) 星野 里奈(英語) 恵哉(英語) 退任(異動) 平成31年4月 小林 大輔(事務)

Table with 4 columns: 支部名, 役職名, 氏名, 卒業年. Lists branch heads and staff members across various departments like 西湘支部, 横須賀支部, etc.

Table with 12 columns: 役職名, 氏名, 卒業年. Lists staff members of the university and middle school alumni association.

日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校 教員名簿 (令和2年1月31日現在・アイウエオ順)

Large table with 12 columns: 役職, 担当教科, 氏名, 着任年. Lists all teachers and their subjects in the school.